

# 研究会も地域から



埼玉 老年・泌尿器科研究会  
代表世話人  
医療法人石井クリニック院長

**石井泰憲**  
Ishii Yasunori

サッカー・Jリーグの“浦和レッズ”がついにアジア・チャンピオンになった。弱小チームのころからの地域に根ざしたチームづくりと、サポーターに支えられての快挙だと思う。

10年前、埼玉 老年・泌尿器科研究会は「排尿管理の文化を地元の埼玉から発信しよう」のスローガンのもとに、一般病院・診療所の泌尿器科の医師・看護師が集まり、老年医学と泌尿器科の研究、研鑽のために発足した会である。“市”の数は日本一でも突出した大都市がない埼玉県と同じで、大物の中心人物はいないが、参加施設の医師・看護師の代表が世話人になり、全員で集まり話し合っって運営している。研究会場は第1回から満席となり、その後も150～200人と多くの参加者が集う人気と活気のある研究会で、今年は第10回になる。

この会は文献や外国からの情報だけでなく、身近な患者さん、地域社会の実情について、医師や看護師をはじめコメディカルの皆さんとともに議論を深める“共有の場”であることが魅力の一つではないかと思っている。一般演題は7～12題で看護師の演題が多く、薬剤師の演題もあり、内容はバラエティに富んできている。特別講演は当番世話人の先生方が英知をしぼって企画され、好評である。また、本研究会の講演内容は記録集として毎回印刷・製本して参加者に配布され、研究会の発展に寄与していると考えている。

埼玉県は東京に目を向けて生活している“埼玉都民”と呼ばれるサラリーマンのベッドタウン地域である。しかし、ベビーブームの際に生まれた団塊の世代がこの10年で定年を迎える。東京まで通勤していたサラリーマンも、住んでいる“埼玉の地域”でのコミュニティに参加してもらう必要があり、これは住宅地の都市型老人の課題になる。

高齢者に生き生きとした生活を送っていただくためにも、地域に根ざした研究会の役割はますます大きくなると思われ、一層の充実を図っていきたいと考えている。